

道徳科学習指導案

授業者	清友啓介
学年・学級	4年3組
場所	4年3組
授業日	11月1日(水)2校時

1 主題 「示されていないでもきまりは守るべき？」 【C 規則の尊重】 (教材「雨のバスでいりゅう所で」『小学道徳4 はばたこう明日へ』教育出版)

2 授業づくりについて

本学級の子ども達は、これまでの学習や生活経験から「きまりや約束は大切に守るべきもの」と学んでいる。授業の中でも、「きまりを守ること自分や他者の安全を守る」や「人と人との信頼につながっている」などの発言が見られた。多くの生活場面できまりを守ろうとしている一方で、状況によっては守れないこともある。例えば、休み時間になると遊びたい気持ちが先行し、廊下を走ってしまったり、授業に遅れそうだからとトイレのスリッパを揃えず、そのままにしまったりすることがある。そして、自身が守れていない状況でも、注意を受けると不満そうな様子を見せることもある。つまり、きまりは大切としつつも、その時々で自分の行動に立ち止まって考えることができず、場合によっては面倒なものと感じているのかもしれない。

そこで、本主題を通して、きまりがある理由について様々な立場から考え、進んで守ろうとすることの大切さについて考えたい。きまりは自分と相手が気持ちよく生活していくために、集団に属しているすべての人々の幸福を願って、互いの意思をもとにできたものである。きまりの中には、守るべきものとしての「ルール」と守った方がよいものとしての「マナー」が存在している。多くの場合、マナーについては不文律である場合が多い。しかし、きまりを守るとは明文化されているかどうかに関わらず、集団が安全かつ安心して生活でき、社会の秩序を保つことにつながる。また、人間関係においては、集団や社会の中で大切に認識されているきまりを守ること、信頼が得られ、連帯感が生まれる。つまり、きまりは決して自身を拘束するものではないのである。しかし、人はつい自分本位な考えや思慮不足から、きまりを破ってしまうことがある。そこで本時では、きまりがある理由について様々な立場から考え、進んで守ろうとする道徳的判断力を養いたい。

本時で扱う教材は、主人公のよし子が雨の日に乗車の順番を守らないことが問題になっている教材である。本教材はよし子視点で書かれており、軒下で待っている時、バスが到着した時、母親に連れ戻された時、バスの中で母親の顔を見た時で変化するよし子の気持ちを捉えやすく描かれている。バス停ではなく軒下という一見順番待ちかどうかわかりにくい状況の中、思わず自分のことを優先し、誤った行動に出てしまったよし子の姿が描かれている。よし子の視点から描かれた教材だからこそ、母親の考えや周囲の人が感じるであろう気持ちを想像することにより、主題に迫ることに適した教材といえる。

以上のような子どもの実態と教材の性質から、指導に際しては次の3点を大切にしたい。1点目は、よし子の行動の是非をもとにきまりを考えるための範読から授業を始める工夫である。教材の中では、きまりに関わる言葉は1度も用いられていない。導入で、きまりに関わる問いをすることで、子ども達は順番待ちというきまりを意識してしまう。教材の特性を利用し、よし子の行動の是非を子ども達自身が判断することで、教材から問題を見つけ、身の回りの明文化されていないきまりについて考えられるようにしたい。2点目は、登場人物への心情理解を促すための範読の工夫である。範読では、雨音の効果音が流れるところから始める。こうすることで、子ども達自身は雨の日の不快感を連想しやすく、聴覚的に登場人物の状況がわかりやすくなる。そこから教材中の登場人物の心情理解を促すことができると考える。3点目は、様々な立場からきまりの大切さを考えるためのシンキングツールの利用である。本時ではYチャートを用いる。これにより、教材中の登場人物全員が「早くバスに乗りたい」という共通の思いをもっていながら、よし子、母親、周りの人々で行動が異なることが整理でき、それぞれの立場から考えに違いがあることへの気づきを促すことができる。こうしてよし子に足りなかった考えをもとにしなが、誰もが気持ちよく生活するために必要なきまりの意義に迫りたい。

3 道徳的な見方・考え方を働かせる発問生成表をもとにした授業構造図

道徳的な見方・考え方は現在の道徳科の目標にあたる「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めること。」と整理されている。それを本校道徳部では解釈し、具体化したものとして「行為や事象を様々な立場や状況から捉え、それに対する考え方や感じ方」と捉え直した。行為や事象に対して違った見方ができると、新たな考えが生まれ得る。また、多様な考え方に合うことで、新たな見方も獲得し得る。そこで、本時で用いる教材の中心的な行為や事象から道徳的な見方・考え方を働かせることで生成した発問（表1）をもとに、表出されるであろう考え方（図1）についてまとめたものが以下の図である。

表1 「雨のバスでいりゅう所で」における発問生成表

<p>意義（自分・相手・社会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ大切か（理由） ・どんないいことがあるか（効用） ・何のためか（目的） <p>意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か（内包） ・どんな種類があるか（外延） ・どんなことが必要か（成立条件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・何のためにきまりをまもるのでしょうか？（意義） ・どうして書かれていないきまりを守る必要があるのでしょうか？（意義） ・きまりはどうしてあるのでしょうか？（意義） ・どうしてきまりができたのでしょうか？（意味） ・みんなが気持ちよく過ごすためにはどんなことが大切なのでしょうか？（意味） ・きまりが書いてある方が、間違いがなく過ごせるはずなのに、書いていないのはどうしてなのかな？（意味） ・誰もがきまりを守るためには、全てきまりを書いて貼る必要があるのでは？（意味）
--	---

教材内の発問例

立場 行為・事象	主人公 (よしこ)	行為や事象に関わる人物 (お母さん、周囲の人)	自分 自分だったら-自分でできているか 何を大切に思っているのだろう
<p>意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ大切か（理由） ・どんないいことがあるか（効用） ・何のためか（目的） <p>意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か（内包） ・どんな種類があるか（外延） ・どんなことが必要か（成立条件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・よし子がお母さんに引っ張られたのはどうしてでしょうか？（意味） ・よし子はお母さんに引っ張られて何を考え始めたのでしょうか？（意味） ・（バスに早く乗りたい気持ちは同じはずですが）バスを待っている人とよし子は何が違っていたのでしょうか？（意義） 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜお母さんは怖い顔をして立っていたのでしょうか？（意味） ・どうしてお母さんは怖い顔をして立っているだけで、何も言わなかったのでしょうか？（意味） ・ここにきまりは書かれていません。では、停留所にいた人たちは何を守っていたのでしょうか？（意味） 	<ul style="list-style-type: none"> ・よし子が行ったことはよいことでしょうか？悪いことでしょうか？（意味） ・「順番を守りましょう」と書かれていないのに、なぜ順番を守るのですか？（意義） ・よし子に何か伝えるとしたら何を教えますか？（意義）
立場 状況	主人公	行為や事象に関わる人物	自分
<p>時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去、現在、未来 ・～の時… ・子どもだったら ・大人だったら <p>場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私的な場所⇄公的な場所 ・（教材の場所）から…（㉮別の場所に）変わったら <p>相手との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同級生⇄年上、年下 ・家族、友達⇄知らない人など <p>対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分⇄家族・友達⇄多くの人 ・違ったもの <p>方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～ってどうすること ・どうしたら～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもと違う表情のお母さんを見た時、よしさんはどんなことを考え始めたのかな？（時間） ・もし周りの人が怒っていなかったらいいのかな？（時間） ・もしよし子が待っているのが、バスではなく、家の車でも同じですか？（場所） ・よし子さんたちが初めから軒下に行かずに、バス停に並んだとしたら、先に乗ってもよかったですか？（場所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・よし子がバスに乗っていき座ったとしたら、待っていた人はどう思うのかな？（場所） ・もしよし子のような人がいっぱいいたとしたら、雨のバス停はどうなってしまふのかな？（対象） ・もしバスに乗るのが市長だと先に乗ってもいいですか？高齢者の方だと変わりますか？（相手との関係） 	<ul style="list-style-type: none"> ・もし順番を守るといふきまりがなかったとしたら、これからバス停でどんなことが起こるだろう？（時間） ・きまりを全部示して「守らないと捕まえます」「罰金です」なんていう国があったとしたら、住みたいですか？（場所） ・きまりを守るために、いい方法はありますか？（方法）

○教材における本学級の子どもが捉えるであろう中心的な行為や事象

- ・軒下にいることがバスの順番待ちになっているとは知らずに、バス停に駆け出し、バスに乗ろうとしたよしさんの行為。
- ・いつもとは違う表情で黙って立っているお母さんの姿を見て、自分の行ったことを考え始めたよしさんの姿。



○本学級の子どもが教材に出会い、表出するであろう考え方

- ・よしさんは順番を守っていないから、よくない。周りの人のことを考えないといけないよ。
- ・バスが来たので、誰よりも早くバス停に並んだはずなのに、どうしてお母さんは引っ張って自分のところまで連れ戻したのだろう？
- ・どうして先に並んでバスに乗ろうとしたことはいけなかったことだったのかな？



○見方・考え方を働かせるための発問を通して表出されるであろう
子どもの考え

- …見方・考え方を働かせる発問
- …子どもの考えの例

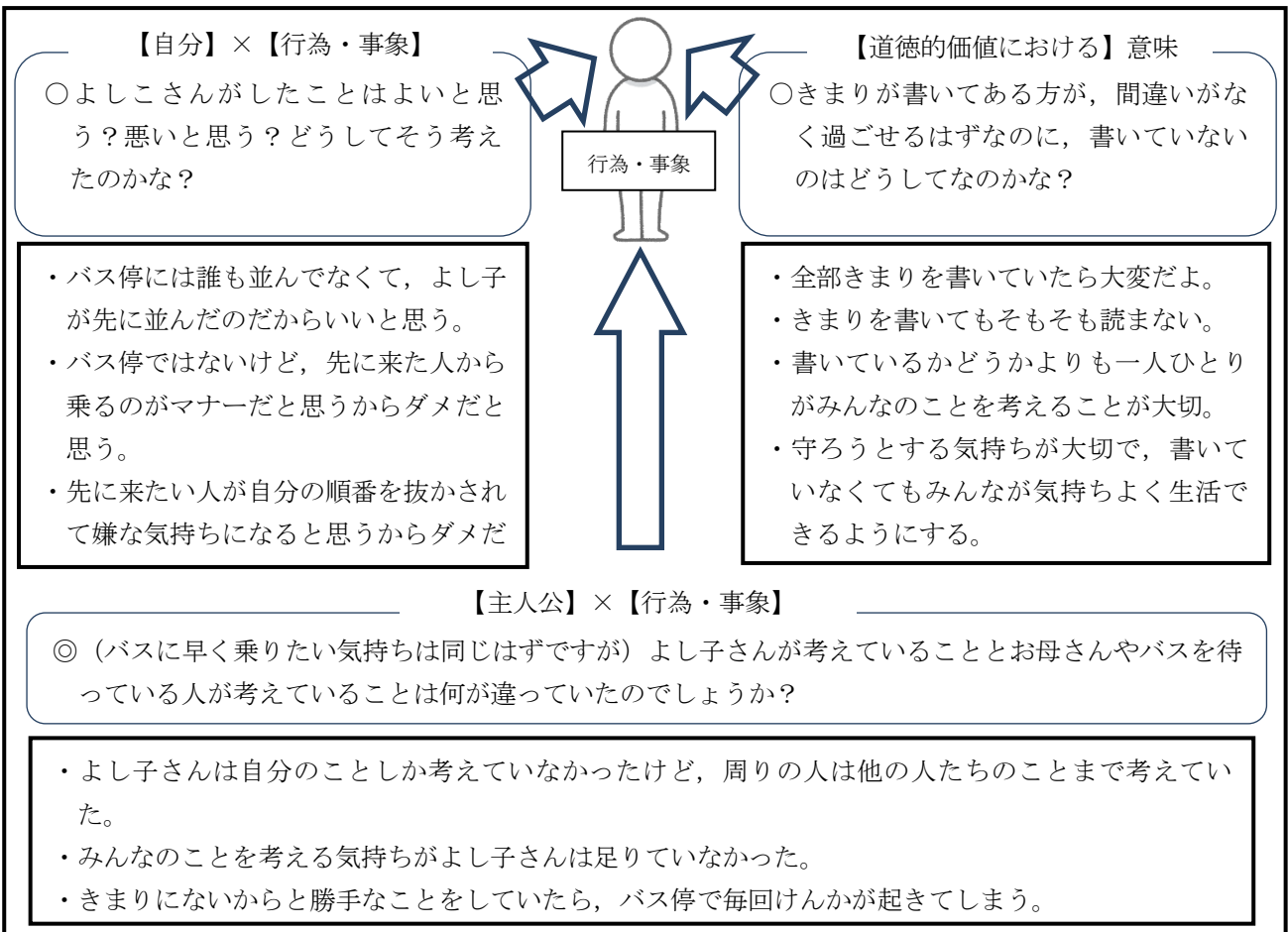


図1 「雨のバスでいりゅう所で」における道徳的見方・考え方を働かせる授業構造図

4 評価の観点

- ・みんなが気持ちよく過ごすために約束やきまりを守って行動していたかどうかを自分との関わりの中で考えようとしたか。
- ・きまりの大切さを明示されているかどうかの有無に関わらず、様々な立場から考え、友達と対話する中で多面的・多角的な見方をしようとしていたか。

5 本時の展開

(1) ねらい

誰よりも早くバスに乗ろうとして引き戻されたよし子が自分の行ったことを考え始めた姿を通して、きまりがある理由について様々な立場から考え、進んで守ろうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

(2) 展開

学習活動	主な発問と予想される子どもの反応	教師の働きかけ
1 教材文「雨のバスでいりゆう所で」を読んで、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○このお話を聞いて、考えたことや不思議に思ったことはありますか？ ・よしさんは順番を守っていないからダメだと思う。 ・お母さんがいつもと違う表情で立っていたのはどうしてかな？ ・よしさんは何を考え始めたのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・範読の際、雨の状況から登場人物の心情に重ねて考えやすくするために、雨音とともに範読を行う。 ・登場人物の位置関係を確認するために、視覚的に示す。
【学習問題】 よしこさんがしたことはよい？悪い？		
2 本時のふり返りを する。	<ul style="list-style-type: none"> ○よしこさんがしたことはよいと思う？悪いと思う？どうしてそう考えたのかな？ ・バス停には誰も並んでなくて、よし子が先に並んだのだからいいと思う。 ・バス停ではないけど、先に来た人から乗るのがマナーだと思うからダメだと思う。 ・先に来たい人が自分の順番を抜かされて嫌な気持ちになると思うからダメだと思う。 ◎（バスに早く乗りたい気持ちは同じはずですが）よしこさんが考えていることとお母さんやバスを待っている人が考えていることは何が違っていたのでしょうか？ ・よしこさんは自分のことしか考えていなかったけど、周りの人は他の人たちのことまで考えていた。 ・みんなのことを考える気持ちがよしこさんは足りていなかった。 ・みんな早く乗りたい。自分勝手はおかしい。 ・もしきまりがないからと勝手なことをしていたら、バス停で毎回けんかが起きてしまう。 ・僕もブランコで並んでいる時に、順番を抜かされて、とても腹が立ったことがある。きまりが書いていなくても、守らないと周りの人が迷惑する。 ○きまりが書いてある方が、間違いがなく過ごせるはずなのに、書いていないのはどうしてなのかな？ ・全部きまりを書いていたら大変だよ。 ・きまりを書いてもそもそも読まない。 ・書いているかどうかよりも一人ひとりがみんなのことを考えることが大切。 ○今日の授業で分かったことやこれからの生活に活かしていきたいことは何ですか？ ・きまりはみんなが気持ちよく過ごすためにできていて、みんなのことを考えて行動することがきまりを守ることになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの子がよし子の行為を否定的に受け止めると考える。そこで、「よし子は悪い子か」と問うことで、行動の是非について着目するよう促す。 ・多面的・多角的に考えられるようにするために、Yチャートを用いてよし子と他の人との違いを比較し、足りない考えに気付けるように促す。 ・きまりの意義に迫るために、バス停にはよし子が1番に並んでいることやきまりは明示されていないことから揺さぶり発問を投げかける。 ・様々な立場から考えたことを自分事で捉えるために、似た経験がないかを問い、自分と境遇を重ねてきまりの意義を考えられるように促す。 ・誰もが気持ちよく生活する上で必要な考えに気付くために、身近な生活から明示されていない他の事例を問う。 ・授業を通して、自分なりに納得したことや考えたことを整理するために、自分の言葉でノートにまとめるように促す。